

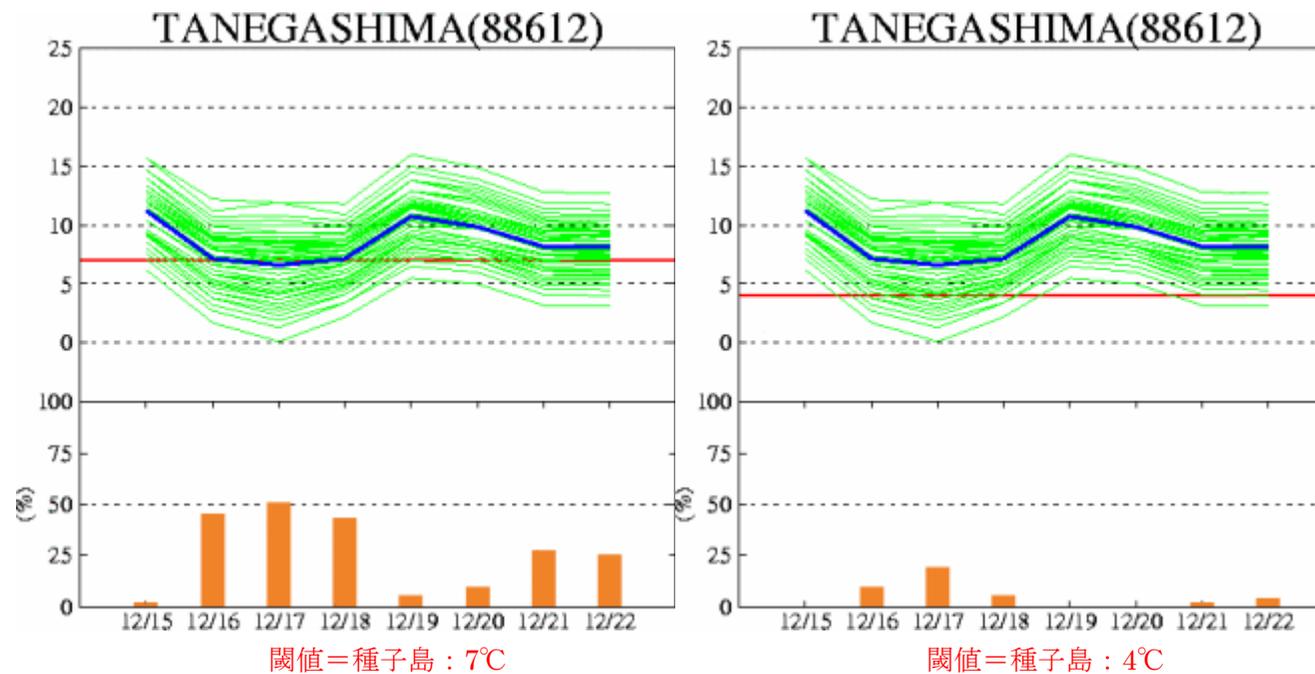
農業気象資料（試行版） 平成 23 年 12 月 15 日 11 時発表

鹿児島地方気象台作成

種子島（左：閾値 7 度）、（右：閾値 4 度）の今後 1 週間の最低気温予想

上側：緑細線は各予測値(51 個)の変化。青太線は全予測値の平均。赤太線は閾値。単位[°C]

下側：最低気温が閾値以下となる確率 [%]



コメント

- ・ 過去一週間の天気と日最低気温は、9日から10日にかけては冬型の気圧配置が強まり、東シナ海側では雲が多くしぐれ模様の天気となりました。太平洋側では晴れる日が多くなりました。11日から15日にかけては、13日に弱い気圧の谷が通過したため雲が多くなりましたが、その他の日は高気圧に覆われておおむね晴れの天気となりました。日最低気温は9日から13日にかけては平年並から低くなり、特に12日は晴れて放射冷却も加わり、大口で氷点下2.8度、溝辺で氷点下1.2度、鹿屋で氷点下0.1度、中種子で4.8度などこの冬一番となる冷え込みとなりました。14日から15日にかけては寒気を中心に東へ抜けたため、平年より高いところが多くなりました。
- ・ 今期間の日最低気温の平年値はおよそ、阿久根6度、鹿児島6度、枕崎6度、鹿屋2度、種子島10度となっています。
- ・ 今期間の天気は、今日（15日）日中は弱い気圧の谷が通過中するため、雲が広がるでしょう。今夜には大陸の高気圧が張り出し、明日（16日）にかけては一時冬型の気圧配置となる見込みです。また、新たな寒気が流れ込んでくるでしょう。17日から18日前半にかけては高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。19日から20日にかけては次の気圧の谷の通過に伴い曇りで雨の降るところがあるでしょう。20日後半から22日にかけては高気圧に覆われて概ね晴れる見込みです。
- ・ 日最低気温は、期間をとおして平年並から低くなるでしょう。寒気のピークは明日（16日）の夜となりますが、その後も居座る見込みで、17日や18日は晴れた場合には放射冷却も加わり内陸部では氷点下まで下がるなど、厳しい冷え込みとなるおそれがあります。
- ・ 7度以下の確率は、県本土では全般に高く、種子島でも19日～20日を除いてやや高くなっています。4度以下の確率は、県本土では鹿屋など内陸部では全般に高く、沿岸部でも19日から20日を除いて高くなっています。各地、日最低気温の平年値が低い期間に入ってきました、平年並の気温でも凍・霜害に対して注意が必要です。